我は螻蛄（けら）

宮坂静生

擦り切るゝまで鳴き通すわれは螻蛄（けら）

十月の枯雌（め）日芝（しば）の火花なす

松代

百合の実の砲弾のごと象山生地

悼 交友半世紀

おつかれと国見敏子の月夜道

十一月は一枚の明るさか

山茶花の蘂の惑乱かなしめり

悼 親愛なる編集者三沢秀次さんへ 二句

寝返りの打てぬ柩をぬくめたし

索引のつもりて黄葉明かりかな

地にしかと刻む冤罪鷹わたる

水中に干戈の巷鳩

椅子を立ちさて今なにと冬麗

安部公房を偲ぶ

カンガルーノートが遺作かひやぐら